
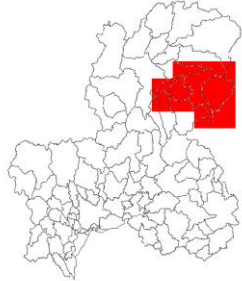


イナヒロハテンナンショウ	<i>Arisaema inaense</i> (Seriz.) Seriz. ex K.Sasamura et J.Murata	絶滅危惧 I 類	
(環境省:絶滅危惧 I A類)		サトイモ科	
選定理由	生育地が局限されているうえ、個体数が極めて少ない。	写真(岐阜県博物館) 標本 	
形態の特徴	高さ30-50cm。葉は普通1個で、偽茎部と葉柄部はほぼ同じ長さ。葉身は5-7枚の小葉に分裂する。小葉は長楕円形で全縁。仏炎苞は淡紫褐色。花序付属体は柄があり、太い棒状。		
生態的特徴	冷温帯の林床や林縁に生育する。葉と花序は5-6月に出る。		
分布状況	日本の中部地方に固有。岐阜県では県北の東部に見られる。		
減少要因	開発による生育地の破壊。		
保全対策	生育地の保全。		
特記事項			
参考文献			

文責:高橋弘